

## 〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

3月報

### インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数5,133件(前月比0.6、前年同月比0.6)でした。昨年末から本年2月まで連続して増加していましたが、3月は減少に転じました。人吉、有明地区など未だ多数の報告は続いています。今後は漸減しながら収束していくものと推測されます。

### 小児科定点

(全体傾向)

報告数8,072件(前月比0.65、前年同月比0.60)でした。昨年秋から漸増し2月にピークを迎え、3月は減少に転じました。主にインフルエンザと感染性胃腸炎の減少によるものと考えられます。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数46件(前月比0.7、前年同月比0.3)でした。本年1月から急激に減少し、例年に比べ少数の報告が続いています。人吉、宇城地区からの報告が若干多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数105件(前月比1.0、前年同月比0.9)でした。大きな変化はなく、昨年と同様の推移です。菊池地区からの多数報告が続いています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数502件(前月比1.2、前年同月比1.4)でした。1月は減少していましたが、2月以降漸増しています。昨年末からA群溶連菌感染後糸球体腎炎の報告が続いていて、今後の動向に注意が必要だと思われます。菊池、宇城地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,600件(前月比0.8、前年同月比0.6)でした。インフルエンザに次いで多く報告されていますが、1月からの減少傾向は続いています。山鹿、菊池地区からの報告が目立ちます。
5. 水痘 : 報告数109件(前月比1.4、前年同月比1.9)でした。昨年12月から増加し、多少の増減はあるものの今月も3桁の報告です。4～6歳の報告が多いようです。
6. 手足口病 : 報告数60件(前月比0.6、前年同月比4.5)でした。昨年10～11月のピーク以降は減少傾向が続いています。1歳児を中心に乳幼児例が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数18件(前月比1.8、前年同月比0.1)でした。昨年夏までの流行は収束し、9月以降毎月20名以下の少数報告が続いています。菊池地区からの報告が多いようです。
8. 突発性発疹 : 報告数133件(前月比1.1、前年同月比1.0)でした。例年同様、1～3月は少なめの推移です。2歳で3例、4歳で1例の報告がありました。
9. 百日咳 : 報告数0件(前月比—、前年同月比—)でした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数29件(前月比0.7、前年同月比2.2)でした。昨年11月から連続して減少しており、例年同様の推移です。12月以降、天草地区からの報告が続いています。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数135件(前月比0.7、前年同月比0.3)でした。減少傾向は続いており、一昨年の3月と同レベルまで減少しました。菊池、八代地区からの報告が若干多いようです。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 38 件(前月比 0.7、前年同月 0.3)と先月に引き続き減少しています。すべて熊本からの報告で、他地区からの報告はありません。年齢別では 30～39 歳にピークがありますが、40～50 歳代にも少し発症しています。

## STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：  
報告数38件（前月比0.7、前年比 0.9）で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性18件、女性20件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は20～49歳に見られ、女性は15～44歳に見られます。地域別は、熊本が22件、次いで御船7件、有明、宇城各3件、八代2件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：  
報告数15件（前月比0.6、前年比 1.1）で前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性9件、女性6件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20～70歳以上に見られ、女性は20～69歳に見られ、男女ともに幅広い年齢に見られます。地域別は、熊本10件、次いで八代、宇城各2件、菊池1件でした。
3. 尖圭コンジローマ：  
報告数9件（前月比2.3、前年比1.5）で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性8件、女性1件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20～69歳と幅広い年齢に見られ、女性は40～44歳に見られます。地域別は熊本8件、宇城1件でした。
4. 淋菌感染症：  
報告数26件（前月比1.4、前年比 1.7）で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性21件、女性5件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は15～49歳と幅広い年齢に見られ、女性は20～24歳に見られます。地域別は、熊本が20件、次いで菊池、有明各2件、御船、宇城各1件でした。

## 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：  
報告数は40件（前月比：1.8、前年同月比：1.7、男女比：23/17）で2月に比較し増加傾向にあります。熊本地区(17)を中心に、阿蘇地区(7)、八代地区(5)（以下略）と広範囲に認めます。70歳以上(25)と0歳(6)中心に凡そ二峰性を示しました。H28は多少の増減を認めましたが、H28.5月(11)以後、増加傾向にありますので要注意です。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：  
報告数は6件（前月比：1.5、前年同月比：1.2、男女比：5/1）で2月に比較し増加傾向にあります。有明地区(4)、熊本地区(2)に限局していました。0歳(2)、1-4歳(1)と、70歳以上(3)と二峰性を示しました。H28には月ごとの変動が大きな年でしたが、H28.12月(4)報告数の全体的な底上げを認めます。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：  
報告数は1件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：0/1）でした。尚、前月は報告がありませんでした。八代地区(1)、70歳以上(1)のみでした。H28.9月(1)以来の報告事例となり

ます。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は3件（前月比：3.0、前年同月比：-）で2月に比較し増加傾向にあります。熊本地区(3)からの報告のみです。いずれも50歳以上で偏りがあります。H28.10月(3)にピークがあり、H28.3月(0)でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：0.3、前年同月比：0.1）で2月に比較し減少傾向でした。熊本地区(1)からの報告のみです。5-9歳でした。H28.7-9月(7-19)のピークを経て、引き続き減少傾向にあります。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は11件（前月比：0.7、前年同月比：0.3）で2月に比較し減少傾向でした。熊本地区(5)、有明地区(3)、水俣地区(2)、菊池地区(1)と熊本地区に多い傾向です。5-9歳(4)をピークに1-19歳(9)と、35-44歳(2)で二峰性を示しました。H28夏季から冬季(15-54)の発生状況を鑑みるに減少傾向にありますが、今後H29.5月ごろからの増加に注意が必要です。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で前月に同様、報告はありませんでした。H28.12月(1)のみでした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）： 報告数は14件（前月比：2.0、前年同月比：0.2）で2月に比較し増加傾向にあります。熊本地区(8)、人吉地区(6)と両者で多く見られています。1-4歳(9)をピークに0-9歳(14)で認められました。H28.1月(71)のピークを経て、夏季を中心に症例報告はほぼ無くなりましたが、H29に入り、再び増加傾向(H29.1月(5)→H29.3月(14))にありますので注意が必要です。

## 届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	30件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： レジオネラ症	1件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
	後天性免疫不全症候群	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
	梅毒	2件